

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高等学校
新聞部
太郎坊チャレンジ号1

太郎坊チャレンジ 限界への階段を駆け上がる

→ 太郎坊宮チャレンジ いざスタート！



臼井 文音さん
一般女子 第1位 1:15:63
ステアクライミングをやっていて、太郎坊チャレンジと呼ばれる大会があることを知り、大会に応募しました。ステアクライミングで神社の階段を登るとい形式は初めてだったので上手くいくか心配でしたが走れて良かったです。
手にしているのは”勝ち” 守り



「熱中できる遊び」で未来を創ろう エール株式会社・安田式体育遊び研究所社

太郎坊宮チャレンジは多くの企業の協力で開催された。その中でひときわ元気づく盛り上がっている集団を発見。滋賀県大津市のエール株式会社と安田式体育遊び研究所の社員さんだった。代表の井関和江さんと井関達彦さんに話を伺った。エール株式会社は主に幼稚園を中心に遊具の開発をしている。現場に遊具を設置し、子供たちに遊具の遊

び方も教えている。安田式とは、こども達が熱中する遊びで本能を呼び覚まし、生きる力を育む教育法だ。エール株式会社はこどもとこどもを育む大人にエールを送っている。今回、社員旅行を兼ねての参加となった。タイムは二の次？楽しんでおられた。



10月19日(土)、東近江市八日市の太郎坊山で今年初めて『太郎坊チャレンジ』が開催された。遠方からのチャレンジャーや地元住民が終結し、太郎坊宮の石段379段を駆け上がる『ステアクライミング』という競技だ。滋賀県屈指のパワースポットを駆け上がり未来を掴め!!

『太郎坊チャレンジ』は、歴史ある太郎坊宮とその周囲の美しい自然環境を活用したアクティブなイベントとして企画された。参加者は、小学生低学年から成人と幅広い世代を対象に行われた。初開催にもかかわらず330人が参加した。

大会実行委員会の今宿裕昭さんは「この大会を通して全国の多くの人に歴史ある東近江市・太郎坊宮を知ってもらいたい。地域を活性化させたいという思いから、このイベントを立ち上げた」と熱く語ってくれた。この思いに太郎坊宮さんの協力のもとクラウドファンディングや

多くのスポンサー、ボランティアの支援があり開催となった。さて、あいにくの雨となった競技では、見事一般男子1位を取った島 徳太郎さんはなんと50秒。2位と3秒差でのフィニッシュで観客を圧巻した。島さんはトリプル(3度駆け上がった総合タイム)でも1位だった。各種目で優勝した男女には『勝ち男』『勝ち女』の称号が与えられた。最高齢チャレンジャーは78歳の方で一生懸命走っておられ、地元の参加者も多く見受けられた。大会会場のセッティング、運営は多くの人に支えられていた。八日市高校生徒会・

八日市南高校JRCの生徒たちや地元の住民の方のボランティアによる支援が大きな力となって参加者たちにとって安心して楽しめるイベントとなったようだ。

主催者側は「来年もさらに多くの参加者を迎えたい」と地域振興にも大きな意義があることを強調した。自然と歴史ある場所での『太郎坊チャレンジ』は、参加者にとって体力だけでなく、精神的にもリフレッシュできる貴重な機会となり、地域の魅力を発信する新たな取り組みとして成功を収めたのではないだろうか。



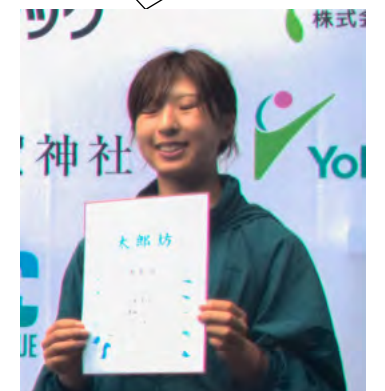
木下 尚哉くん
走ることが好きで、この太郎坊宮チャレンジも自分で見つけて応募しました。太郎坊宮チャレンジで全力を出せるように頑張ります。見事、小学生高学年 第3位

原田 知華子さん
一般女子 第2位
SCJエリート選手
2023東京マラソン3位



↑ 順番待ちの人で賑わう境内

澤田ことりさん
一般女子 第3位



八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高等学校

新聞部

太郎坊チャレンジ号2

ステアクライミングとは

ステアクライミングは、超高層ビルやタワーなどの非常階段を駆け上り到達するタイムを競い合う都市型ランニング系種目。海外では年間300大会以上開催される今、人気のスポーツ。筋力を鍛えるためのエクササイズとしても人気がある。

効果は階段を使用することで、通常のウォーキングやジョギングよりも高い負荷がかかり、特に太ももやお尻、ふくらはぎの筋肉を効率的に鍛えることができる。また、体感のバランスを保つことが求められるため、コアの安定性も向上する。

身近な場所でも野外や自宅の階段を使って行うことができる。

みなさんも取り組んでみてはいかがだろう。

太郎坊とは

滋賀県東近江市の太郎坊宮は正式名称を阿賀神社といい、約1400年前に創建された歴史ある神社である。勝利と幸福を授ける神様として信仰されている。伊勢神宮の天照大神の第一皇子神を祀っている。神様のお名前は「正哉吾勝勝速日天忍穂耳大神」（マサカアカツカチハヤヒアメノオシホミミノオオカミ）には「まさに勝った、私は勝った。朝日が昇るように 鮮やかに、速やかに勝利を得た」という意味が込められ、古くは聖徳太子や源義経などが崇敬していたと伝えられ「神駿即限の大神」とも

称されている。

本殿前には夫婦岩がある。岩は80cm程離れていて、神の神通力によって開かれたと伝えられ、岩の間を悪心のある者が通ると挟まれると言われている。



↑ 太郎坊宮

島 徳太郎さん
一般男子 第1位
タイム 50:14



矢島昭輝さん
一般男子 第2位
SCJエリート選手
2023東京ター階段競争優勝

石田諒太さん
一般男子 第3位



↑ 飛び入り参加の
東大津高校新聞部

階段をこよなく愛する集団 SCJ！

今回行われた太郎坊宮チャレンジは「ステアクライミング」と呼ばれる競技だ。このチャレンジに参加していたSCJ(Stariclimbing Japan)は、日本初のステアクライミング団体だ。

2020年に発足したこの団体は、「ステアクライミング」を競技として大会を駆使して普及させることを目標としている。また、

健康増進を目指し、アスリート育成や地域活性化にも取り組んでいる。SCJは、国際競技団体の※VWCや※TWAを頂点とした大会やイベントへ参加および競技力向上を目指している。

年間の戦績によって男子20人、女子10人のエリート選手がいる。

エリート選手はSCJ公認のユニホームを着用して競技に参加

する。ランキングで賞金が授与されるので、競技だけで生活ができる人もいるという。今回の大会にもエリート選手が参加しており、力強い走りを見せてくれた。

※VWC(Vertical World Circuit)、TWA(Towerrunning World Association)



← 階段は最高らしい

↓ 田中さん



↓ タイミングを確認しながら演奏する大橋さん



大会を盛り上げた人たち

太郎坊宮チャレンジは田中智峯（たなか ちほう）さんの迫力あるほら貝の演奏で始まった。田中さんは山伏で修行をしており、山の中に入り、自然と一体になるという修行をしている。田中さんは40歳からほら貝を始め、今回のイベントの他にも神社の行事の祭に呼ばれたりするそうで、いろいろな場所に行っている。

田中さんは「こんな自然の中でほら貝を演奏できて嬉しかった」と話してくれた。



チャレンジが始まり、参加者は大橋亮介さんの和太鼓の演奏とともに走り出した。大橋さんは近江八幡市で演奏者として指導者として活躍されている。なんと、このイベントでの和太鼓の演奏はアドリブで、その場の雰囲気に合わせて和太鼓を叩いていたそう。その演奏は参加者だけでなく観客までも魅了した。芸能の道は厳しいのではと聞くと「自分の好きな趣味をやっていたらいつの間にか仕事になっていた」と大橋さんは笑みを浮かべながら答えてくれた。

↓ ひたすら階段を駆け上がる

